宝珠山 如意寺だより 夏号 No. 10
（平成28年７月１日発行）
※バックナンバーは、HPで閲覧可能です。

如意寺の歴史❷

平安時代は国内全般において仏教が栄えた時代でした。如意寺の庫裡にお祀りしている「木造阿弥陀如来座像」は平安後期の定朝様式で彫られています。これは当時、仏教の広がりとともに好まれた様式で、平等院鳳凰堂の阿弥陀如来も同じ定朝様式です。大正７年の大雨で旧如意寺境内の裏山が崩れたとき、土の中から銅尖塔という経筒が発見されました。これは877年に最澄によって建立された比叡山の根本中堂跡より発見された銅尖塔と同じもので、日本には２つしかないとの専門家の鑑定結果が出ています。初期の如意寺本堂はこの時代のものとも推定されます。これは現在、東京国立博物館で保管されています。（つづく）

「珠山千年石の庭」の木製看板できる！

昨年夏号でお知らせしました「珠山千年石の庭」は、花々も成長して雰囲気がとてもよくなってきました。６月には、歌舞伎の人間国宝・坂東玉三郎さんが来られ、お褒めの言葉をいただきました。７月には撮影のため再訪なさるとのことで、ありがたいことであります。写真は、正面駐車場に設置された看板で、墨書は日展作家松本宏揮先生（大阪市）にお願いしました。ミツバツツジの散策道も全線拡幅し大変歩きやすくなりました。

千日会（せんにちえ：如意寺本尊会）

当寺の本尊会（十一面観世音菩薩）である「千日会」が８月９日に行われます。
久美浜を彩る幽玄の“火のお祭り”です。
午後７時：法要（本堂）、千日会護摩（不動堂）
午後７時半より「花火　灯籠流し　大文字焼き」
千日会護摩（千円）、祈願・供養灯籠（千円・海に流します）は事前・当日に随時お申し込み頂けます。

「海の京都」28年度事業

◇久美浜湾〔箱庭遊覧船〕就航
期間：７月16日（土）～９月25日（日）の土日祝（全26回）
停泊場所：久美浜港・かぶと山公園・無人島（カフェ）・小天橋
第一便〈久美浜港11時〉、第二便〈久美浜港13時〉、
第三便〈久美浜港14時〉
問い合わせ：京丹後市観光協会（TEL 0772-62-6300）
京丹後市観光振興課（TEL 0772-69-0450）

◇臨時列車〔久美浜ライナー〕運航
京都丹後鉄道「久美浜駅」～JR「城崎温泉駅」
期間：７・８月の土日祝、９月17～19日（一日　各３本）
限定イベント：地元ガイド（7月2日は住職も）と行く悠久の久美浜めぐり
試食もできる駅前フルーツマルシェ
問い合わせ：丹鉄　久美浜ライナー　で　検索

久美浜でタクシーが運行を開始しました。

どうぞご利用下さい。
◆**久美浜タクシー**　TEL 0772-66-3938（24時間対応 22:00～8:00は要予約）
◆**ＥＶタクシー**　TEL 0772-42-0390（7:30～18:30）
※駅にいない場合は上記へお電話下さい。

夏～秋の花暦

7月
睡蓮（すいれん）　九蓋草（くがいそう）　半夏生（はんげしょう）　夕菅（ゆうすげ）
烏足升麻（とりあししょうま）　薮甘草（やぶかんぞう）　桔梗（ききょう）

8月
槿（むくげ）　狐の剃刀（きつねかみそり）　百日紅（さるすべり）　芙蓉（ふよう）
京丹後市の市の花　洞庭藍（とうていらん）　擬宝珠（ぎぼし）　吾亦紅（われもこう）
秋明菊（しゅうめいぎく）　釣鐘人参（つりがねにんじん）　南蛮煙管（なんばんぎせる）

9月
白萩（しらはぎ）　霜柱（しもばしら）　釣船草（つりふねそう）　藤袴（ふじばかま）
他

白萩

洞庭藍

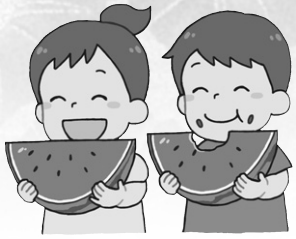
釣船草

南蛮煙管

“ありのまま”に生きるって？（二）

本当の生き甲斐とは　～死をおそれない生き方～

生まれたものは必ず死なねばなりません。だから生の始まりは同時に死の始まりです。生きていく過程は、同時に命の終点に向かう死の過程でもあります。100歳まで生きたということは100年かかって死んだということであり、30歳になった人は、すでに30年分の命が死んでしまったということです。毎日毎秒の生の過程は、同時に毎日毎秒の死の過程でもあります。これが生死一如（しょうじいちにょ）です。生と死は一つの命の裏おもてなのです。もし、生と死が絶対的に違うものだったり、また「違ってほしい。生はよいけど死は嫌いだ」と思うなら、完全な生のよろこびは、死の不安が全くないという生活でなければなりません。しかし、健康上も生活上も何の不安もないような人生があるでしょうか。不安が全くない人生、生の安全が完全に確保されているところに、「安心」はあっても、生のよろこびはありません。あるものは生の退屈だけです。毎日生き生きと工夫しながら生きるという輝いた生活にはなりません。（そういう場合こそ、いつかやってくる漠然とした死の不安におびえ続けることになります。）



完全な生のよろこびというものは、命を完全に生き抜く過程にあります。命は生と死の矛盾を統一したものですから、生き抜き死に抜く、すなわち、命がけの仕事や生きがいの中に全身を打ち込んでがんばり抜くこと、信じる仕事の中に命を投げ出していくこと、文字通り命がけの生活の中で生き抜いていくことが、生と死の矛盾を乗り越えていく道であり、生死の苦悩から解き放たれるただ一つの道です。その感動の中に生き甲斐が生まれます。人生にかけるべき仕事や信念を持った方は幸せです。

以上のことは、生き方の中でのみ、日々動き変化するダイナミックな行動の中でのみ、理解し味わうことができます。しかも、わたしども凡夫でも実践できる具体的な生き方であり、「真のやすらぎ」への到達法でもあります。このことに気づいたときに、自分が正しいと思った道が生きる道となり、苦悩から救われる**実践的な教え**となります。知識でなくて、「行（ぎょう）」＝行動（生き方）が、同時に救済の道となるのです。

仏教は、「仏の教え」であると同時に、**「仏となって生きる道」**（行動のための教え）です。命を上手に使う生き方が「生活」であり、命に使われる生き方が「生存」（ただ生きている）です。

そのものを守ろうとすれば、そのものを守るだけでは守れません。

命を命いっぱいに守り抜くためには、その命を一度投げ出さねばなりません。

（そのくらいの覚悟が必要という意味です。本当に投げ出さないでくださいね。）

これを仏教では「大死一番」と言います。

今回は、『般若心経』の「色即是空」「空即是色」という公式を、「生即是滅」「滅即是生」に置き換えてお話しさせていただきました。正反対のものがイコールであるという不思議な公式は、「即身成仏」にもつながる弁証法的理解が必要であり、行動と体験の中で感得されるものであります。

ことば

◆立派もいいが、謙虚がいちばん
◆納得できないことに、うなずいてはいけない。
◆頑張っていると、必ずだれかが応援してくれる。
　あなたは一人ではありません。

「如意寺だより」は、年四回発行します。郵送ご希望の方は、下記へ何らかの方法でご連絡下さい。無料でお送りします。「たより」をお友だちにもご紹介下さい。
発行：如意寺　〒629-3409 京都府京丹後市久美浜町1845　TEL(0772)82-0163　FAX(0772)82-0563　E-mail：info@nyoiji.com　HP：nyoiji.com